

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和三年一月度 入選句 (投稿総数千九百十二句・小中学投句数千三百五十八句)

特選

日記ちよう冬はほしの事でいっばいだ 大垣市 田中 依吹(小三)

星が大好きなんですね。冬は一年を通して星が美しく見える季節です。冬の星座の目印として「冬の大三角」があります。プロキオン・ベテルギウス・シリウスを結ぶ三角形をいいますが、その三つの星を基点として色々な星座を見つけることが出来ます。星空を観察することは、広い視野から自分自身の存在を確認し、未知の生物や光害などの環境問題にも興味を持つようになります。将来はどんな事をしたいのだろう。作者の想像力や探究心が広大な宇宙のように広がりますように。

元日に人助けしたお父さん 大垣市 砂川 優奈(小四)

「元日」は一月一日で、一年の最初の日。新年を迎え、どこことなく気持ちが高揚します。気分が浮かれ、心に隙が出来て失敗したりしますが、お父さんはどんな人助けをされたのでしょうか？「元旦」という季節が使われるだけで、この句に大きな広がりが生れます。読者に場所や人数・出来事などをあれこれ想像させるからです。素直にそのまま書いた句が成功した例です。

「親の背中を見て子は育つ」と言いますが、この句が出来たということは、作者自身も困っている人を見過ごすことの出来ない人に育っているに違いありません。

あっちこっちつきたておもちもちもち 大垣市 加納 詩歩子(小二)

十七音の使い方の特徴のある、とても面白い俳句です。今までに覚えた「言葉」を上手く並べました。上五の「熱い」という意味の形容詞である「あっちち」と、下五の「もちもち」には、言葉聞いたときに勢いや速さを感じる小文字の「つ」が使われ、また、中七も含めた「た行」のひらがなの多用は見事です。平仮名で構成された一句全体が、つきたてのおもちのようです。

秀逸

ベランダに積もった雪で雪だるま 加茂郡川辺町 馬場 航平(中一)

窓ごしに積もらぬ雪をながめてる 加茂郡川辺町 松下 慶大(中三)

積もる雪消える足あと一人きり 加茂郡川辺町 黒岩 遥菜(中三)

はつゆきにふくらむきたいと心ばいと 大垣市 よこまく みほし(小二)

雪だるま作ればとけるまた作る 大垣市 原 幸太郎(小五)

雪だるまパパとつくとでかくなる 大垣市 坂 煌太(小五)

じよやのかね一年間がかけぬける 大垣市 若山 宗介(小五)

初夢で家族とケンカ泣きおきる 大垣市 神田 莉嘉(小五)

賀状書く前の学校や友達に 大垣市 若田 紗奈(小五)

秋の風ぶるっとふるえる奈良の町 大垣市 川瀬 心晴(小六)

入選

ことしだけしずかにすごすおししょうがつ	大垣市	安田 岳広(小二)
いいことありますようにとはつひの出	大垣市	丸野 優牙(小二)
ゆきの日にともだちふえたよゆきだるま	大垣市	すあみ れん(小二)
ゆきだるまゆきといっしよにかくれんぼ	大垣市	平沢 柚葵(小二)
はつげいこもくひようかいていたをわる	大垣市	杉山 遼(小二)
すいせんを見るとわたしもせなかピン	大垣市	渡部 美響(小二)
ふゆやすみ学こういくよりはやおきだ	大垣市	たが ひろと(小二)
おとし玉ころころしてどこいくの	大垣市	増田 樂(小三)
ふゆのあさしんぶんやさんのあしあとだ	大垣市	渡部 結良(小三)
しも柱ふめばいろんな音がなる	大垣市	河添 朔也(小四)

入選

初日の出山に明りがついている	大垣市	服部 さき(小四)
雪つもるとけてゆくほどよごれてく	大垣市	わたなべ こう(小四)
初日の出 金生山を赤くそめ	大垣市	伊藤 慶(小四)
ヤドカリの気持ち分かる冬の朝	大垣市	神谷 咲希(小四)
じよやのかねコロナで昼に意味あるの	大垣市	古田 健真(小四)
はくさいがへるのはいつもなべのとき	大垣市	高澤 あかり(小五)
授業中買ったばかりの雪眼鏡	大垣市	高橋 功多(小五)
お正月いろんな初に出会ったよ	大垣市	清水 きなり(小五)
いちよう散る水にうつつた平等院	大垣市	細野 桜(小六)
予想よりちよつと少ないお年玉	大垣市	栗田 眞帆(小四)

選者吟

喧嘩独楽傷をつけずに引き分ける

せいじ